



生徒がしいたけ栽培

5月1日、串原中学校でしいたけ菌打ちが行われました。串原中学校では、20年ほど前から山林学習の一環として、毎年しいたけの栽培に取り組んでいます。この日は原木（クヌギ）約40本に、生徒たちがドリルで穴を開け、「改良棒駒」というしいたけの種菌を約1000駒打ち込みました。この原木は主に2年生が育成の管理を行います。生徒たちは「おいしいしいたけが育ちますように」と、2年後の収穫を心待ちにしていました。

慎重な手つきでドリル作業をする生徒ら



郷土を築く原動力に

4月26日、恵那文化センターで新規学卒就職者激励会が開催され、36事業所から138人の新入社員が出席しました。市雇用対策協議会長である可知市長から「社員の差は能力ではなく意識の差からくる。やる気を持って取り組んでほしい」とあいさつの後、先輩社員の吉田典弘さんから激励の言葉を受け、就職者代表として里の菓工房に勤務の金子侑里さんが「初心を忘れず、明日の郷土を築く原動力になれるよう努力したい」と誓いました。

誓いのことばを述べる金子侑里さん

おいしいコメの拠点完成

5月2日、山岡町田沢で建設が進められていました「恵南ライスセンター」が完成し、式典に関係者約160人が参加しました。

施設は、着色したコメをより分ける色彩選別機、湿式の集じん機を新たに設け、主に山岡町、明智町などで生産されたコメの荷受けから、乾燥、もみすり、計量、出荷までを受け持ちます。事業主体はJAひがしみので、総事業費は市、国県の補助を受け約5億8千万円。1日最大荷受量は約102トです。

完成式典でテープカットをする関係者



クリスタルパークで全国大会

4月16日から夏季営業が始まったクリスタルパーク恵那スケート場で4月30日、全国市民インラインスケート恵那大会が開催されました。大会には、県内をはじめ東京都や大阪府、遠くは福岡県など全国各地から6歳～70歳まで約140人が集まりました。選手たちは100㌥タイムトライアルや1,000～10,000㌥のトラックレースに出場。軽やかでスピード感あふれるレースを展開し、それぞれの記録に挑戦しました。

100㌥タイムトライアルのスタートを切る選手



大正村で武将行列

5月3日から3日間、「第19回日本大正村ちょっとおんさい祭」が開かれ、約15,000人が訪れました。市街地では大道芸やちんどん屋などの催しが連日行われ、初日には明智町ゆかりの戦国武将・明智光秀にちなんだ「第34回光秀まつり」が開催されました。小学6年生の児童を中心とした約100人の武将行列や司葉子村長を乗せた山車がパレードしたほか、愛知古銃会のメンバーによる火縄銃の空砲射撃も行われ、祭りを盛り上げました。

騎馬武将も参加した武将行列



稚児450人が行列

7年に1度行われる岩村町の石室千体仏ご開帳に合わせて4月30日、稚児行列が行われました。行列は、経を唱える僧侶を先頭に、町内外から集まった約450人の子どもとその家族が、岩村振興事務所から岩村公民館までの約3㌔を練り歩きました。行列の稚児が持っている花びらをかたどった金色の紙には、御利益があるとされており、沿道で見守る多くの見物者は稚児たちから紙を受け取っていました。

御利益があるとされる金色の紙を渡す稚児



坂折棚田で田植えを体験

農林水産省の「日本の棚田百選」に選定されている中野方町の坂折棚田で5月11日、中野方小学校5・6年生の児童39人が田植えを行いました。同校では、体験学習の一環として米作りを地元の坂折棚田保存会（鈴木直会長）の協力のもと実施しています。

この日は、棚田の歴史などの話を保存会員の方から聞いた後、まだ冷たい田んぼの中にはだしで入り、手作業で慎重に苗を植えていきました。

田植えに取り組む児童



熱戦のわんぱく相撲

5月5日、明智町春日野記念相撲場で第20回わんぱく相撲大正村場所が開催され、市内外から96人の小学生が参加しました。競技は各学年別にトーナメント方式で行われ、参加した児童らは土俵上で熱戦を繰り広げ、大きな声援の中、勝つことの喜びや負けることの悔しさを体験しました。6月18日(日)には明智町で県大会が開催され、出場する4～6年生の最上位の男子児童らは「優勝目指して頑張りたい」と意気込んでいました。

観客の声援を受け奮闘するわんぱく力士たち

ギフチョウの揺りかご移植

5月13日、長島町久須見の新田上ため池で、地域やため池の関係者の皆さん約20人が参加し、ギフチョウの幼虫や餌となるヒメカンアオイ約240株の移植作業を行いました。

ため池周辺には希少種のギフチョウが生息しており、改修工事に伴い作業を実施。ヒメカンアオイの葉は、裏に卵が産みつけられ、ちょうど揺りかごのようでした。中には幼虫となっているものもあり、卵や幼虫に注意を払いながらやさしく移植しました。



卵が産み付けられたヒメカンアオイを丁寧に移植

三先人からまちづくりを学ぶ

5月5日、岩村公民館でフォーラム「人づくり心そだては、まちづくり～江戸期の偉大な三先人に学ぶ～」が開催されました。これは、NPO法人いわむら一斎塾が主催で行われ、鈴木東海市長、鈴木豊田市長、可知恵那市長が細井平洲、鈴木正三、佐藤一斎の教えから、まちづくりについてトークショーを行いました。可知市長は「佐藤一斎の言葉から道徳を学んだ。これを子育てや教育の面に活かしたい」と話しました。



先人から学ぶまちづくりについて意見交換する市長ら



お年寄りと親睦を深める

5月18日、串原中学校でお年寄りの方との交流会が開催されました。串原中学校では、独居老人の方と1年生の時から交流を始め、約130人を対象に各行事の開催案内や暑中見舞いなどを送り、年に2回学校で交流会を開いています。この日はお年寄りの方19人が参加し、ゲームや坊主めくりを行い、あちこちで歓声が上がりました。このほかに生徒が中山太鼓や合唱を披露し、「祭りに来たようでとても楽しかった」と喜ばれました。

シールを顔に貼る罰ゲームに笑合う生徒ら



火災予防の模範となる隊員に

5月7日、恵那文化センターで平成18年度恵那市少年消防隊入隊式が開催されました。合併後初めての消防隊に62名が入隊し、総勢151名の消防隊員が出席しました。可知市長から激励のあと、伊藤春正消防団長より「火災の怖さを学び、自分の家からは火を出さないこと」と訓示を受け、岩村小学校6年生の遠山一磨副隊長が「火災予防を心掛け、明朗活発な模範となる隊員になることを誓う」と、力強く活動への意気込みを述べました。

団長に向かって敬礼をする遠山一磨副隊長